

着付け職種技能検定 2級学科試験

令和8年6月9日（火）

一般社団法人全日本着付け技能センター

問題1. 服飾の歴史について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 江戸時代

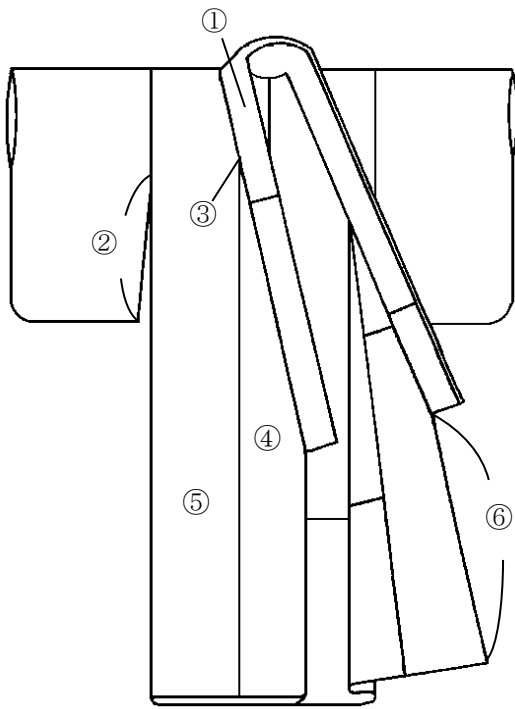
2. 弥生時代

3. 昭和時代

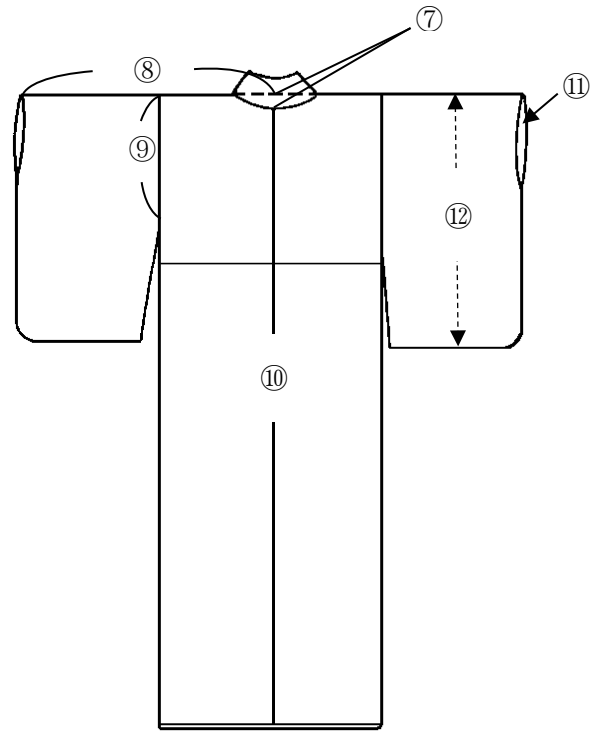
ア. 友禅染 イ. 訪問着 ウ. 十二単 エ. 名護屋帯 オ. 貫頭衣

問題2. 次の着物の各部位の名称について、それぞれの語群の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

I. 女物 袷 長着(前)



II. 女物 袷 長着(後)



[語 群 I]

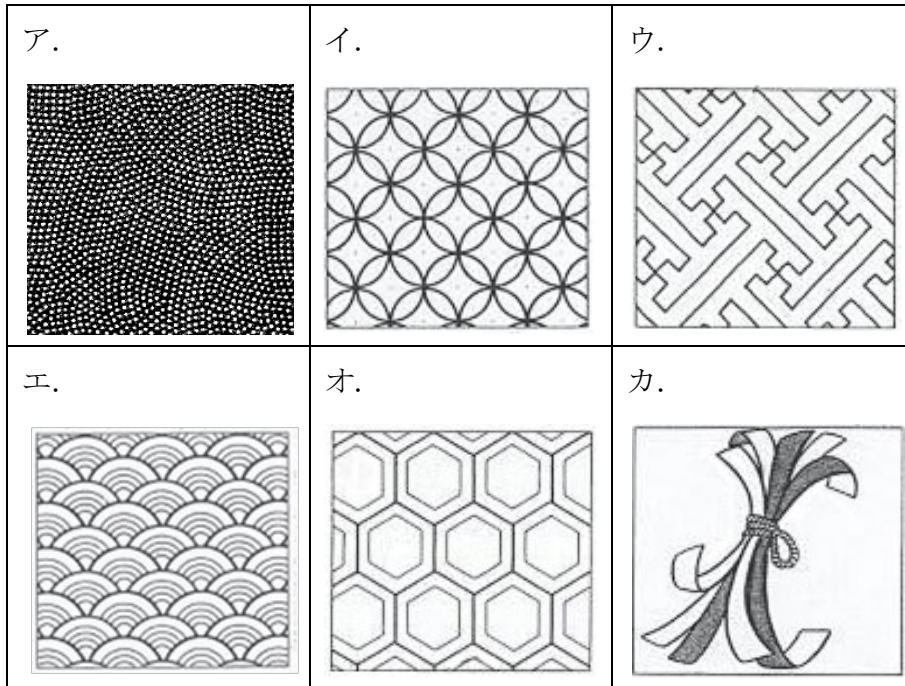
- | | | |
|---------|---------|------------|
| ア. 抱幅 | イ. 身八つ口 | ウ. 剣先 |
| エ. 前身ごろ | オ. 衽下がり | カ. 衿下 (棲下) |
| キ. 振り | ク. 衽 | ケ. 共衿 (掛衿) |

[語 群 II]

- | | | |
|--------|---------|---------|
| コ. 袖付 | サ. 袖丈 | シ. 衿 |
| ス. 袖幅 | セ. 袖口 | ソ. 脇縫い |
| タ. 背縫い | チ. 後身ごろ | ツ. くりこし |

問題3. 次の代表的な古典文様の名称について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1. 紗綾形 | 2. 亀甲 | 3. 青海波 |
| 4. 熨斗 | 5. 鮫小紋 | 6. 七宝 |

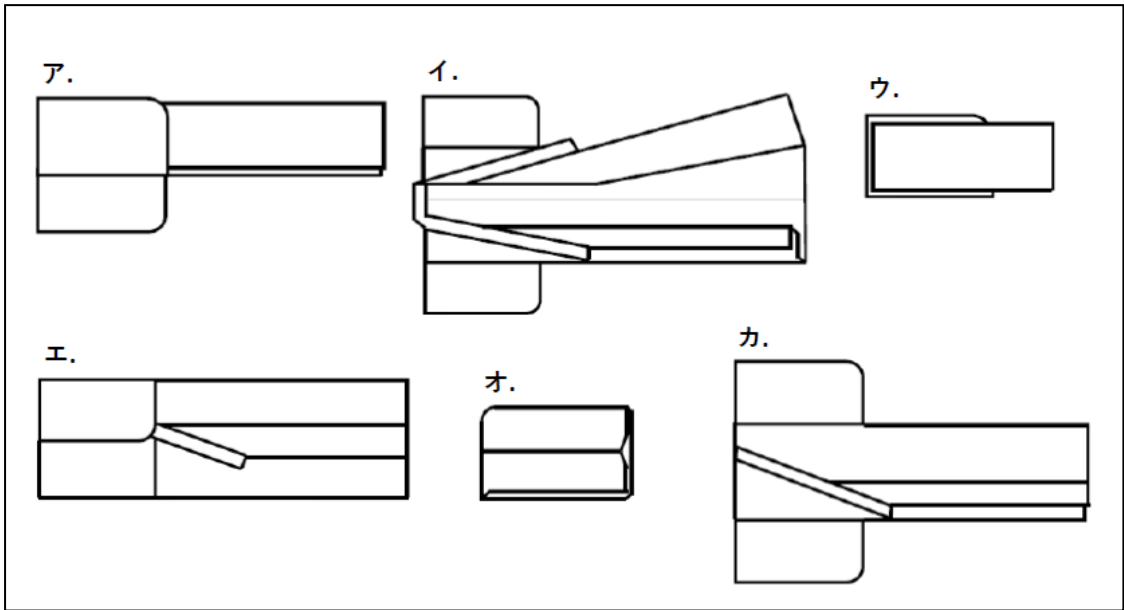


問題4. 次の男女の着物の違いを述べた文章について、正しい方を選び記号を記入しなさい。

1. 女物の着物には身八つ口が (ア. あり イ. なく)、(ウ. 人形 エ. 振り) がある。
2. 女物の着物にはくりこしが (ア. あり イ. なく)、また、(ウ. 身丈 エ. 着丈) に仕立ててある。
3. 男物の着物はおはしより分が (ア. あり イ. なく)、(ウ. 身丈 エ. 着丈) に仕立ててある。

問題5. 長着（本だたみ）のたたみ方について、下記の図の中から必要なものを選び、正しい順序になるように並べて、記号を記入しなさい。

(1) → (2) → (3) → (4)



問題6. 次の織物について、あてはまる説明文を下記の中から1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 塩瀬 2. 縮緬 3. 紹

ア. からみ織りの一種で透けるように織り上げたもの。夏の着物、長襦袢、半衿、帯揚げ、帯などに用いられる。

イ. 玉繭、真綿、くず繭などを使用して織った、平織の絹織物。

ウ. 羽二重地の厚い絹織物。布面によこ畝が現れるのが特徴。

エ. たて糸に撚りのない生糸、よこ糸に撚りの強い生糸を用いて平織にしたのち、特殊な液体に入れて煮て精練して仕上げた絹織物。「しぼ」という凹凸がある。

問題7. 下記の空欄にあてはまる染めの手法を選び、記号で記入しなさい。(同じ記号を何度使用してもよい。)

衣服地には、織糸を染めてから織る (1) と、生地を織ってから染める (2) とがあり、紹は (3) で、紗は (4) である。

ア. 先染 イ. 後染

問題 8. 着物の用途、格等に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選び、記号を記入しなさい。

- ア. 留袖に合わせる帯は袋帯がよい。
- イ. 大島紬の訪問着は、礼装になる。
- ウ. 小紋と袋帯を合わせても礼装にはならない。
- エ. 新郎の袴下の帯は、兵児帯をする。

問題 9. 次の文章のうち正しいものを1つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 背紋と後袖紋で、三つ紋となる。
- イ. 黒留袖の紋は、五つであれば縫紋でもよい。
- ウ. 紬に五つ紋をつけると正式礼装になる。

問題 10. 次の着物に適した帯を下記の中から選び、記号を記入しなさい。

1. 男物の浴衣
2. 訪問着
3. 女物の結城紬

ア. 名古屋帯 イ. 兵児帯 ウ. 半幅帯 エ. 袋帯

問題 11. 次の文章の空欄に最も適当なものを下記の中から 1 つずつ選び、その記号を記入しなさい。

1. 白に金糸、銀糸の (①) は礼装用として用いられる。
2. 装飾的な意味合いが強い (②) は、絞り、無地などがある。
3. (③) は、比翼衿を略したもので、着物の衿の下にもう一枚重ねる衿のことをいう。
4. (④) は、白の塩瀬が一番格が高く、縮緬より上である。

ア. 伊達衿	イ. 帯揚げ	ウ. 帯板
エ. 裾よけ	オ. 半衿	カ. 帯締め

問題 12. 次の着物と小物の合わせ方のうち、正しいものを 2 つ選び、記号を記入しなさい。

ア. 新郎紋服	_____	白扇
イ. 黒留袖	_____	色柄物の帯締め
ウ. 喪服	_____	黒のエナメルの草履
エ. 訪問着	_____	色物の帯揚げ
オ. 染め抜き五つ紋の色留袖	_____	黒の帯揚げ

問題 13. 次の着物の着用時季について、() にあてはまる最も適当なものを、下記の中から 1 つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 絹の訪問着は (①) に着用する。
2. 紬の袷の着物は (②) に着用する。
3. 小紋の単の着物は (③) に着用する。

ア. 6月と9月	イ. 8月のみ	ウ. 9月から3月
エ. 5月から10月	オ. 7月と8月	カ. 10月から5月

問題 14. 着物の着付けをするときの心得として、正しいものを2つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 着付けを始める前には丁寧に一礼をする。
- イ. 着付けをする時のクリップや小物は、着物用がなければ代用品（洗濯ばさみ、生ゴム等）を使用しても良い。
- ウ. 着付けをする際には、着物や帯や小物を踏んだり跨いだりしないよう大切に扱う。
- エ. ひも類は、首や肩にかけて作業をする。
- オ. 身なりは特に注意する必要はなく、素足でもよく、時計やアクセサリ類を外す必要は無い。

問題 15. 次の記述のうち、正しいものを1つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 美容師免許を取得しなくても、全国どの都道府県でも美容を業として行うことができる。
- イ. パーマネントウェーブ・結髪・化粧等の方法により容姿を美しくすることは、美容師でなくても業として行うことができる。
- ウ. 美容師免許がなければ、有料で着物を着付けることができない。
- エ. 美容師免許がなければ、花嫁の結髪・化粧を業として行うことができない。

全日本着付け技能センター

2級学科試験【模範解答】

令和8年6月9日(火)

受験番号	—
------	---

氏名	
----	--

問題1 (各2点)

1 ア	2 オ	3 イ
-----	-----	-----

問題2 (各2点)

1 ケ	2 キ	3 ウ	4 ク	5 エ	6 カ
7 ツ	8 シ	9 コ	10 タ	11 セ	12 サ

問題3 (各1点)

1 ウ	2 オ	3 エ	4 カ	5 ア	6 イ
-----	-----	-----	-----	-----	-----

問題4 (各1点)

1	ア	エ	2	ア	ウ	3	イ	エ
---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題5 (各2点)

1 イ	2 カ	3 ア	4 ウ
-----	-----	-----	-----

問題6 (各2点)

1 ウ	2 エ	3 ア
-----	-----	-----

問題7 (各2点)

1	ア	2	イ	3	イ	4	ア
---	---	---	---	---	---	---	---

問題8 (各2点)

ア	ウ
---	---

問題9 (2点)

ア

問題10 (各2点)

1 イ	2 エ	3 ア
-----	-----	-----

※順不同

問題11 (各2点)

1 カ	2 イ	3 ア	4 オ
-----	-----	-----	-----

問題12 (各2点)

ア	エ
---	---

※順不同

問題13 (各2点)

1 オ	2 カ	3 ア
-----	-----	-----

問題14 (各2点)

ア	ウ
---	---

※順不同

問題15 (2点)

エ
